

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491200115		
法人名	株式会社 インテック三重		
事業所名	グループホーム 伊賀町 いこいの里		
所在地	三重県伊賀市野村字安田129-1		
自己評価作成日	平成24年7月16日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 24 年 8 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、見取りケアが出来るグループホームです。入居された利用者様・ご家族様が望みであるのならば、住みなれたこの場所でラストステージを迎えることが出来ます。その時はご家族様と共に、見送ることが出来る様に配慮している施設です。その為、看護師総数3名。常に医療連携を行い、利用者様の健康チェック・異常の早期発見・早期対応に心がけています。又、元気な利用者様には、生活の役割(ご自分たちが決めた役割)を見守り、安全と安心を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いこいの里の誓いを方針に掲げ職員は、利用者に対し心からその人らしさを大切に、また、最後まで利用者に寄り添い、ここに来て良かったと思われる様に支援している。ホームはユニバーサルデザインのまちづくりで認可され居室は家族も宿泊出来るように広い空間があり、明るく、のびのびと過ごせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の「その人らしさ」を大切に理念を共有している。	いこいの里の誓いを玄関・事務所に掲げ、「本人らしさを大切に」の理念を基本とし、月2回の会議の中で職員と話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方は来て頂けるが、なかなか地域全体とは出来ていない。	自治会に加入し、地区の防災訓練では救護班として役割を持っている。回覧板でクリスマス会等の行事の参加を呼び掛けている。近隣の方に畑を借りたり、野菜を貰ったりしている。また、中学生の職場体験の受入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のかかわり方についての講師は、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	やっと1回目の推進委員会を行ったのが現状で、今後どのようにサービスに結び付けてゆくのか検討中である。	今年は2ヶ月毎の開催予定計画を立案し、事業所として6月に始めての会議を区長、市職員参加で開催している。	地域の理解と支援を積極的に得るためにも、利用者、家族、民生委員、地域の知見者等、参加メンバーを広げ、構成メンバーやテーマ等を検討し、2ヶ月毎の継続開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行っている。	市高齢福祉課とは認定更新等、事務手続き時に情報交換している。また、事業所には介護相談員が月1回派遣され、相談・意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・行動制限に関し、主治医・家族の許可なく行うことは一切行っていない。	主治医の指導のもと、事故防止の為家族の同意を得て拘束をしている利用者はいる。玄関等の出入りはいつでも出来るよう施錠はしてない。	全職員の理解度の高揚とマンネリ防止のための定期的な研修と介助方法の点検を行い、身体拘束をしないケアの実践を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する監視は十分に行っている。職員同士が注意しあいながら日々ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の疑問には出来るだけ早く答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見は十分に聞き、又、月に一回の定例会議にて改善出来る様努力している。	職員が、いこいの里自治会ノートにより利用者から要望・意見を聞き検討している。最近では脱衣場が寒いと言われエアコンを設置した。また、家族からは面接時の相談、意見箱への投入、あるいは直接手紙、電話でも要望、意見を頂くことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は申し送り事項を儲け提案を聞き、全職員の共通認識の中反映させている。	系列グループホームの合同会議や職員会議、職員専用の意見箱、また申し送り帳にも記入出来る体制になっている。年に2回、施設長主催の会議があり、直接職員の意見・要望が言えるように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善には努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングを行うこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの訪問は積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関係作りには、ペプロウの人間関係論に基づき、全職員に教育している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で家族の不安・心配を取り除けるよう接触している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン・看護計画・介護計画にて示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共働者である事を常に意識し接触している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へのご協力をお願いなど行う。又、年間行事にはご家族の参加もお勧めし、ご本人の日常を実感していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方のお友達ではあるが誰でも着いていただける環境作りを行っている。	友人が時々訪ねて来る人もいる。現在は利用者同士が顔なじみになり日常話をしている。墓参り等は家族に連絡し対応している。また、管理者等は回想法を用いて利用者と話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に1人になることのないようにかかわりを持っている。(本人が独りになりたい時は別)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なくなられた方のご家族の相談も聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人に対するモニタリングは行っている。又、介護職員の意見にも耳を傾けケアプランに反映している。	職員は利用者との話の中で、本人の状態・表情等を見て、本人の思いを把握している。また、家族には面会日に本人の意向等も聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活をそのままこのグループホームに持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることの把握は全職員で行い、少しでも自立出来る様に努力している。結果、介護度の改善もめまぐるしく、介護5の方が介護3になった方などかなり多い。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方などは職員全体で検討している。	計画作成担当者、担当職員、看護師それぞれのモニタリングをもとに毎月の職員会議での意見、担当者会議等での家族等関係者の意見を取りまとめ6ヶ月に一度は計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しは6ヶ月に一回をめぐりに行っている。身体的な問題のある場合はその都度見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの必要な方などにはそのサービスを行うなど努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携は十分行い、緊急時の支持も頂いている。	主治医は利用者全員が協力医である。往診は月2回あり、結果はホームの看護師が家族に報告している。その他の受診は主治医の紹介を得て家族と連携し行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職と常に相談を行い、それぞれの利用者様の安全と安心に答えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供所のやり取りで行っている。又、それぞれの医療連携部との連絡調整を看護職が役割として行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル計画書を医師・ご家族・いこいの里で共有化している。	方針・同意書・終末計画書等、看取りに関するマニュアルがあり、契約時に家族と話し合い、主治医と連携の下、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行えるよう教育している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携で行えている。	防災マニュアル、スプリンクラー、備蓄はある。備品は今後、揃える予定であり、避難場所・経路は周知している。自治会の防災訓練(9月)には参加する予定であるが、事業所の防災訓練は実施していない。	消防署の指導の下、事業所独自の避難誘導方法、災害に備えた訓練計画を立て実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには努力している。	おむつ交換、着替え時は「部屋に戻りましょうか」等の声かけをし、プライバシーを損ねるようなことはしていない。職員同士が気がついた時は注意しあっている。また、管理者は職員に、尊厳についての研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の決定したことに関しては見守りを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のアンケートなどを行っている。	月2回程利用者に食べたい物を聞き、個々の要望に応じている。調理師がメニューを作り、食材を仕入れ、職員が調理している。利用者は持参したマイ食器を使用している。食事中は音楽(懐メロ)を流しており、食事が楽しみになるようにしている。役割りとして配膳をしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎防止の為に口腔ケアは積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立を目的に行っている。	ケース記録で24時間管理し、時間的に声かけてトイレに誘導している。オムツからリハビリパンツへと順を得てオムツはずしに支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察は神経質に行い、ここに応じ排便をしたりし排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に合わせて行っている。	男女別に曜日と午後からの入浴日を決めているが、毎日入浴出来る体制は出来ている。入浴は職員と一対一で、一人ひとりに合った支援をしている。脱衣場も最近取り付けたエアコンがあり、居心地の良い脱衣場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのライフスタイルに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の自立を促しているが、管理も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割・楽しみを維持している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など申し出がある場合は見守りながら行っている。	本人の希望で墓参り、食事等は家族と一緒に出かけている。散歩をして五感を楽しんだり、借りた畑に行ったり、理・美容院に職員と出かけたりしている。ホーム合同で行う夕涼み会も家族と参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由になっているが、現在持っている人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の自由は守られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境作りは行っている。	玄関、廊下、食堂には花が飾っており、天井が高く非常に明るい。中庭にはウッドデッキが備えられ足浴も楽しめる。清掃専属の職員がおり、臭いもなく内外共清掃が行き届いており清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋に行けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に任せている。	ベット、筆筒はホームが用意し、希望があれば畳も用意出来る。布団、家族の写真、テレビ等も持ち込み、のびのびと暮らせる様、部屋は広く作ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努力している。		